

東北地方 1 か月予報

(9 月 2 0 日から 1 0 月 1 9 日までの天候見通し)

平成 1 5 年 9 月 1 9 日

仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

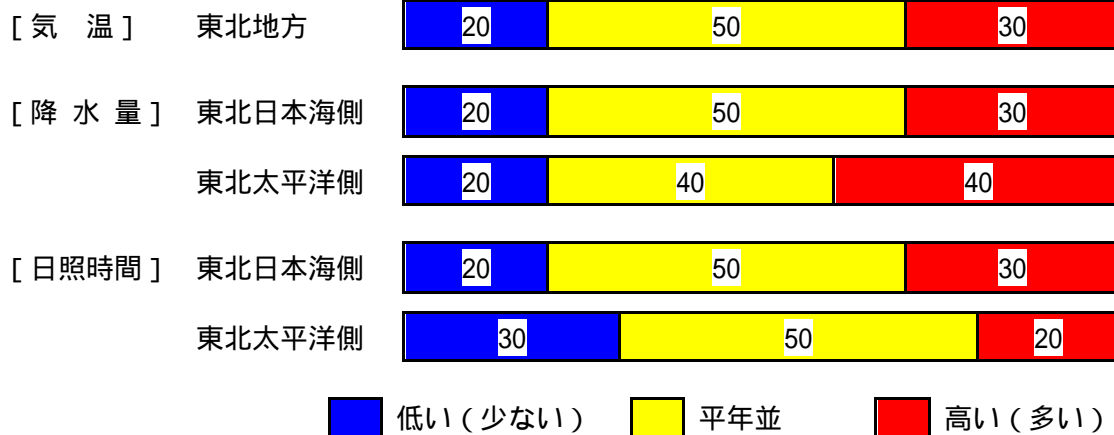
向こう 1 か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

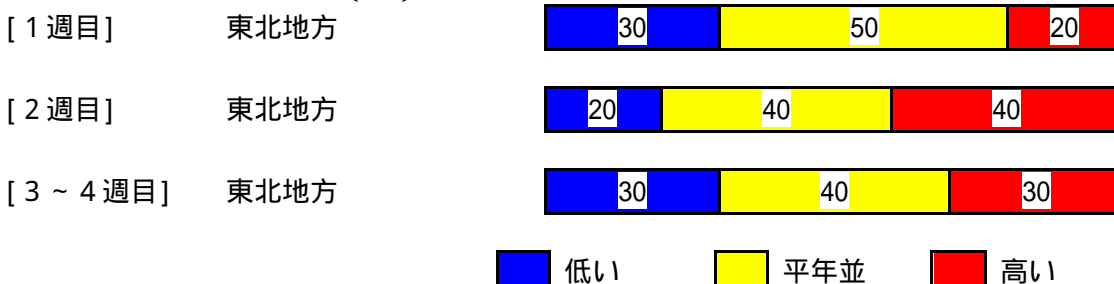
向こう 1 か月の平均気温は平年並、降水量は東北日本海側は平年並、東北太平洋側は平年並が多い、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1 週目は平年並、2 週目は平年並が高い、3 ~ 4 週目は平年並の見込みです。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



< 予報の対象期間 >

1 か月 : 9 月 2 0 日 (土) ~ 1 0 月 1 9 日 (日)
1 週目 : 9 月 2 0 日 (土) ~ 9 月 2 6 日 (金)
2 週目 : 9 月 2 7 日 (土) ~ 1 0 月 3 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 1 0 月 4 日 (土) ~ 1 0 月 1 7 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 9 月 2 6 日
3 か月予報 : 9 月 2 5 日 (木) 1 4 時 0 0 分
寒候期予報 : 9 月 2 5 日 (木) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

| | 気 温 () | 降 水 量 (mm) | 日照時間 (時間) | 気 温() | | |
|-----|------------|---------------|--------------|--------|------|----------|
| | | | | 1 週目 | 2 週目 | 3 ～ 4 週目 |
| 大船渡 | 15.9 | 169.0 | 135.0 | 18.0 | 16.8 | 14.7 |
| 新庄 | 14.9 | 135.3 | 106.7 | 17.4 | 15.9 | 13.5 |
| 若松 | 15.8 | 91.5 | 115.1 | 18.3 | 16.8 | 14.4 |
| 深浦 | 15.6 | 157.8 | 145.3 | 17.8 | 16.5 | 14.3 |
| 青森 | 15.0 | 96.2 | 157.9 | 17.5 | 16.0 | 13.6 |
| むつ | 14.5 | 130.3 | 158.5 | 16.7 | 15.5 | 13.2 |
| 八戸 | 15.0 | 94.6 | 155.5 | 17.4 | 16.0 | 13.8 |
| 秋田 | 16.0 | 146.1 | 152.0 | 18.4 | 17.0 | 14.6 |
| 盛岡 | 14.2 | 101.1 | 141.5 | 16.8 | 15.3 | 12.9 |
| 宮古 | 15.2 | 156.4 | 142.1 | 17.4 | 16.1 | 14.1 |
| 酒田 | 16.9 | 160.1 | 145.0 | 19.1 | 17.8 | 15.7 |
| 山形 | 15.6 | 89.4 | 125.2 | 18.1 | 16.7 | 14.3 |
| 仙台 | 17.0 | 148.8 | 135.2 | 19.1 | 17.9 | 15.8 |
| 石巻 | 16.4 | 128.2 | 144.6 | 18.6 | 17.3 | 15.2 |
| 福島 | 17.0 | 127.3 | 124.3 | 19.3 | 18.0 | 15.8 |
| 白河 | 15.4 | 146.7 | 122.8 | 17.6 | 16.3 | 14.2 |
| 小名浜 | 18.1 | 184.8 | 135.7 | 20.0 | 18.9 | 17.0 |

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

| | 気温平年差() | 降水量平年比(%) | 日照時間平年比(%) |
|--------|-------------|-----------|------------|
| 東北地方 | -0.5 ～ +0.2 | 78 ～ 110 | 94 ～ 107 |
| 東北日本海側 | -0.6 ～ +0.2 | 81 ～ 115 | 94 ～ 107 |
| 東北太平洋側 | -0.5 ～ +0.2 | 75 ～ 112 | 94 ～ 108 |

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

| | 1 週目 | 2 週目 | 3 ～ 4 週目 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 東北地方 | -0.5 ～ +0.4 | -0.6 ～ +0.5 | -0.5 ～ +0.5 |
| 東北日本海側 | -0.6 ～ +0.4 | -0.6 ～ +0.5 | -0.6 ～ +0.5 |
| 東北太平洋側 | -0.5 ～ +0.4 | -0.5 ～ +0.5 | -0.5 ～ +0.5 |

< 参考資料（利用上の注意） >

- （１）気温・降水量等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。
- （２）確率は、予報した階級が実際に起こる割合（出現率）を表しています。たとえば、確率 60％の予報 10 例では、そのうちの 6 回で予報した階級が実際に起こり、4 回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率（各階級ともに 33％）から大きく隔たった確率（10％や 60％、70％など）を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。
- （３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 15 年 9 月 19 日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月(9 月 20 日～10 月 19 日) :

天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1 週目(9 月 20 日～9 月 26 日) :

期間の前半は、前線や台風の影響で曇りや雨の降る所が多い見込みです。後半は東北日本海側では晴れる所もありますが、東北太平洋側では、湿った東よりの風で曇りの日が多いでしょう。

なお、今後の台風の動きによっては予報が大きく変わる可能性があります。

平均気温は平年並でしょう。

2 週目(9 月 27 日～10 月 3 日) :

天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3～4 週目(10 月 4 日～10 月 17 日) :

天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

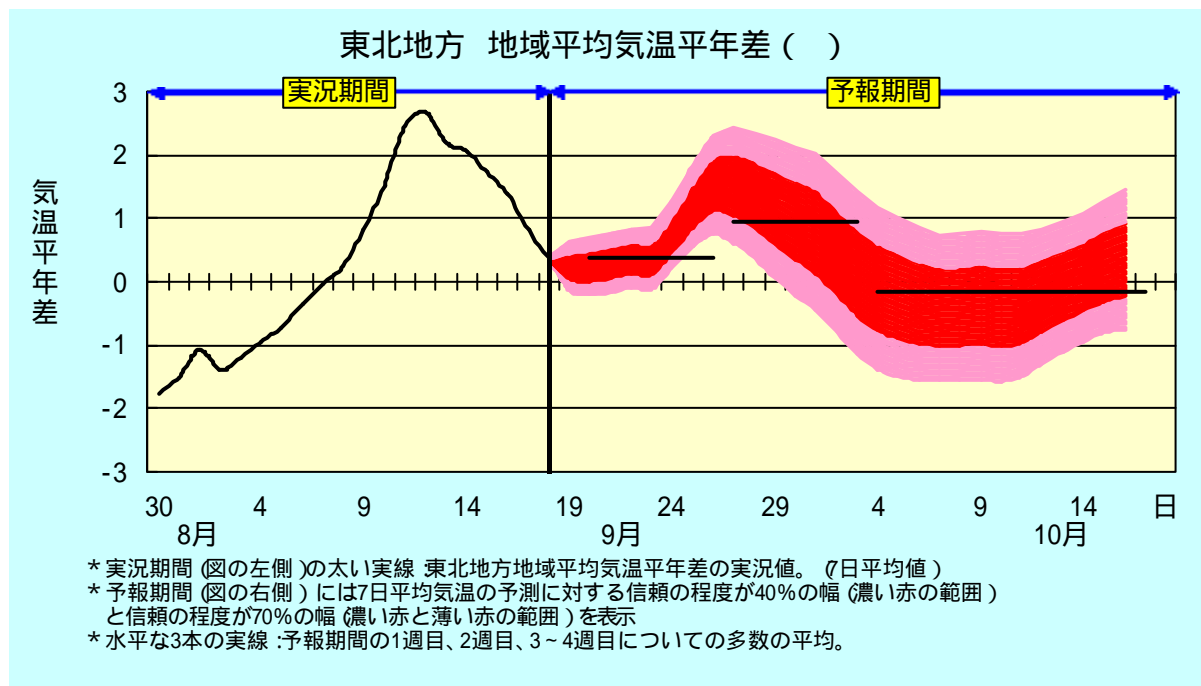
平年の晴れ日数

| | 向こう 28 日間 | 1 週目 | 2 週目 | 3～4 週目 |
|--------|-----------|-------|-------|--------|
| 東北日本海側 | 13.7 日 | 3.4 日 | 3.6 日 | 6.7 日 |
| 東北太平洋側 | 14.7 日 | 3.4 日 | 3.7 日 | 7.6 日 |

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目は「平年並」、2 週目は「高い」、3～4 週目は「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から 2 週目を「平年並か高い」に変更する。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

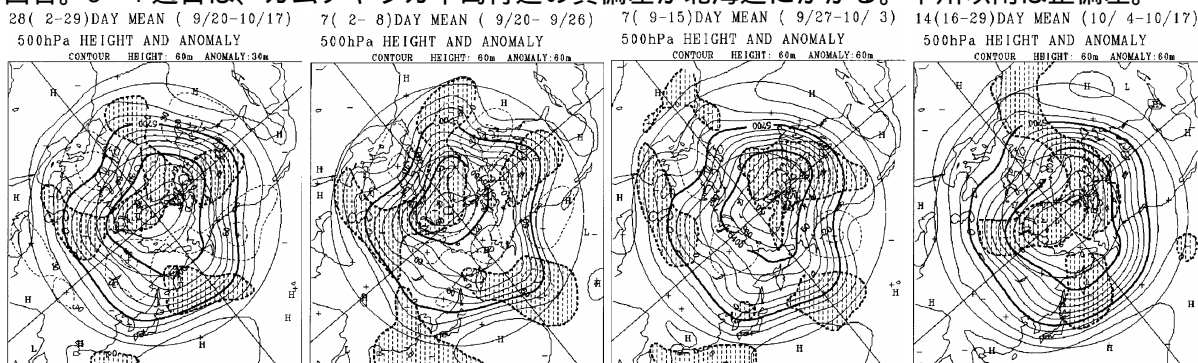


3．数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、カムチャツカ半島付近に負偏差が見られるが、日本付近は正偏差に覆われる。偏西風の流は東西流が卓越しており、天気は数日の周期で変わる見込み。

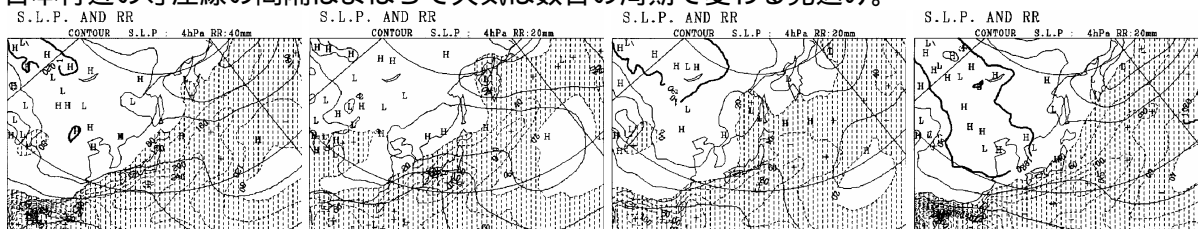
週別に見ると、1 週目は、東シナ海が負偏差となる。太平洋高気圧は日本の南東海上で勢力が強い。沿海州に気圧の尾根があり、北に偏った高気圧が予想される。2 週目は、日本付近はやや西谷。3～4 週目は、カムチャツカ半島付近の負偏差が北海道にかかる。本州以南は正偏差。



地上気圧と降水量：

月平均では、等圧線の間隔はまばらで天気は数日の周期で変わる見込み。日本の南岸にまとまった降水域が予想される。

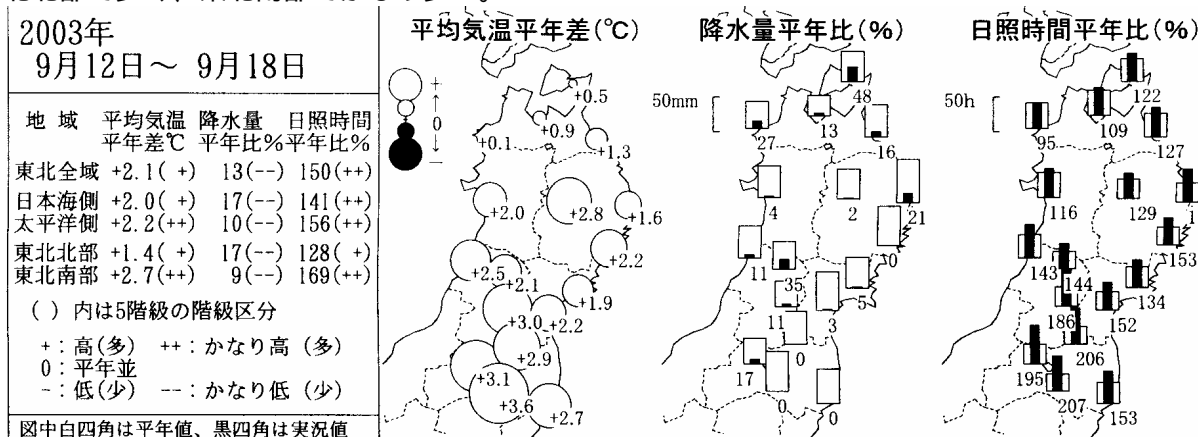
週別に見ると、1 週目は、前線や台風の影響で、日本の南岸に降水域が広がる。北海道付近に帯状の高気圧。2 週目は、日本の南岸から三陸沖に降水域。3～4 週目は、大陸の高気圧が強まる。日本付近の等圧線の間隔はまばらで天気は数日の周期で変わる見込み。



4．最近 1 週間（9 月 12 日～9 月 18 日）の天候の経過

この期間、13～14日に日本海を北東進した台風第14号の影響で東北北部を中心に強い風が吹き、秋田県や青森県で強風や高波による被害が発生し、秋田県では1名が死亡した。また、12日と18日も前線の影響で曇りの所が多かったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。

平均気温は、東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量はかなり少ない。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

お 知 ら せ
平 成 1 5 年 9 月 1 9 日
仙 台 管 区 気 象 台

寒候期予報と暖候期予報が新しくなります

1．数値予報モデルを用いた手法（力学的手法）の導入

気象庁では、平成15年3月に、3か月予報に数値予報モデルを用いた手法（力学的手法）を導入しました。引き続き、予報期間のより長い寒候期予報と暖候期予報についても力学的手法を導入すべく、必要な技術開発を進めてきました。その結果、精度向上が確認できましたので、平成15年9月から寒候期予報と暖候期予報に力学的手法を導入します。

予報期間の長い季節予報においては予報の不確実性が避けられません。しかし、力学的手法の導入によって不確実性を持った情報を合理的に表現する手段である確率情報を充実できることから、降水量や降雪量の予報にも確率を付加します。また、今後の数値予報モデルの改良に伴い、さらに予報精度が向上することが期待されます。

2．発表日の変更

寒候期予報は毎年9月25日頃、暖候期予報は2月25日頃と、9月、2月の3か月予報と同時に発表します。

なお、今年の寒候期予報は9月25日に発表します。